地域の発展に寄与を

国道225号川辺トンネル開通

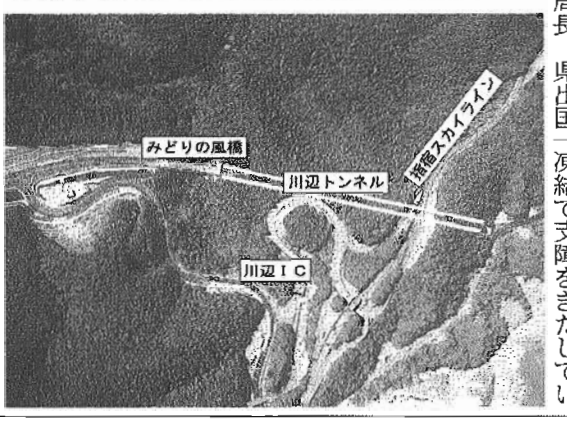
国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所が整備を進めている国道225号川辺改良事業のうち、鹿児島市平川町と川辺町野崎の境界に建設してきた川辺トンネル（L389m）がこのほど完成し、19日に開通式が現地で行われ、奥村康博同事務所長をはじめ、菊田利春同局副局長、県出国会議員、東展弘川辺町長ら関係者約60人が出席して開通を祝った。

式典では、奥村所長が「これまでは濃霧や路面凍結で支障をきたしていたが、今後は交通の安全が確保され、南薩地域の生活や産業の発展に寄与することを願っています」と式辞。また、県出国会議員や脇田稔県副知事、東町長らが祝辞を寄せた後、トンネルにつながる橋梁（L100m）を「みどりの風橋」と命名した神殿小学校2年生の有村博之君に賞状が授与された。

場所をみどりの風橋に移して橋名の除幕式に続いて、テープカットやくす玉を開披して開通を祝った後、関係者はパトカーに先導されて車で通り初めをした。

同事業は、川辺町市之瀬から鹿児島市下福元町までの延長8・3キロにおいて異常気象時の事前交通規制区間の解除と山岳道路の急勾配、急カーブの線形改良を行うもので、同トンネルは平成11年9月に工事着手した。総事業費は同トンネル約17億円、橋梁約4億円、その他改良約9億円の合計約30億円となる。

今回の完成により、現道1100㍍から800㍍へ約300㍍の短縮が図られるほか、線形の改良や縦断の勾配が緩和され走行環境が大幅に改善される。



完成を祝いテープカットとくす玉を開披する関係者（上）と現地上空写真

鹿児島臨港地区見直し案説明会

本港区 中央ゾーン、無分区に

鹿児島県と鹿児島市は18日、港湾管理者である県が作成した鹿児島臨港地区の見直し案に関する説明会」を同市の桜島フェリーターミナルで開き、住民や地権者、プレジャーボート所有者など市民ら74人が参加して見直し基準やスケジュール等について説明を受けた。

同臨港地区は、港湾機能の保全と港湾背後地の保護育成を図るために定めており、大規模工場等の新設、増設等の一定の行為について届け出を義務づけているほか、5分区（商港区、特殊物資港区、漁港区、保安区、修景厚生港区）においては目的を著しく阻害する建築物費は同トンネル約17億円、橋梁約4億円、その他改良約9億円の合計約30億円となる。

港地区の見直しによって変更される個所を説明する職員＝鹿児島市の桜島フェリーターミナルで

地方公共団体として都市計画の観点から協議を行ってきたことと、平成16年5月頃を予定している用途地域見直しに合わせて都市計画決定の手続きを進めることに伴い開催された。

今回の主な新規指定及び変更個所は、新規に本港区ふ頭用地を臨港地区指定（商港区・修景厚生港区・保安港区）に、本港区中央ゾーンを同指定（無分区）にしたほか、鴨池港区を同指定（商港区）に、木材港を同指定（特殊物資港区）に、谷山一区・二区を同指定（商港区・保安港区）に指定。そのほか、臨港地区及び分区を一部解除し

市計画決定権者（県都市計画課）に申し出た変更案について、同市が関係

線引き見直し等説明会

住民の意見等受ける

鹿児島市

鹿児島市は19、20日の両日、「線引きと用途見直しにあたっての基本的な考え方の説明会」を市内5カ所で開き、参加した200人もの住民に見直し基準やスケジュール等について説明したほか、意見や要望などを受けた。

同説明会は、16年5月までに県が策定する都市計画区域マスタープランに伴い、市素案を作成するにあたって市民へ見直し基準等を示し、意見等を聞くためにかごしま市民福祉プラザなど計5カ所で実施。総計で200人もの住民が参加した。

このうち、谷山北中での説明会には42人が参加し、当局が線引き見直しや用途地域見直しの基本的な考え方、今後のスケジュール等をパンフレットや地図を基に説明した。

意見交換では、「市街化区域と市街化調整区域が入り混じっており、パチンコ店や自動車工場などから乱立してかえって無秩序な街並みになっている。市街化区にして用途地域で制限してほしい」「後継者がおらず、田畑を維持することが難しい。が出されたほか、「もっと地元住民を対象にして線引きについて勉強会を開いてほしい」との要望も出された。

説明会を開いた同市都市計画課は、要望を5月9日まで郵送かFAX、電子メールで受け付けている。問い合わせは、同課（☎099・216・1378　FAX216・1398、Eメールは shikei@city.kagoshima.jp）まで。

説明会終了後、地図をもとに職員に確認する住民ら＝鹿児島市の谷山北中学校体育館で

県立大隅広域公園 オートキャンプ場開園式

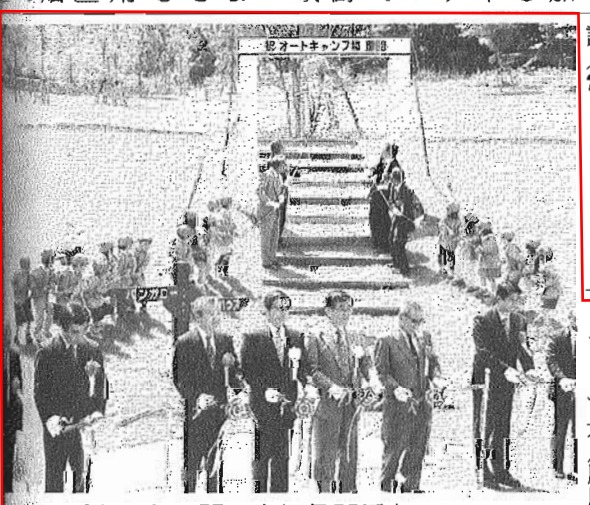
バンガロー等が完成

県立大隅広域公園オートキャンプ場（肝属郡吾平町）の開園式が21日、県、高山・吾平町、県議会、施工業者、地元住民ら30人が出席して現地で開かれ、12年度から整備を進めてきた同施設の完成を祝った。

施工業者主催の神事が行われた後の落成式で中村孝県都市計画課長が「地元産木材を使い、バリアフリー化も整備され大隅アリーナと連携した滞在合宿型の利用を目的としたこの施設を大隅地域はもとより県内外各地からの来場を期待するとともに地域振興のお役に育園児らのテープカット・くす玉開被でオープンセレモニーを行い、大隅アリーナに会場を移し、約280人が出席して祝賀会が開かれた。

同キャンプ場は、面積3・5㌶、総事業費8億2000万円。主な施設は、バンガロー6棟（5・6人用）、オートキャンプ場（普通車20区画、大型車3区画）、フリーテント（持ちこみテント12区画）、施設内のサービス管理棟のセンターハウス、炊事・シャワー・トイレなどのサテライトハウス等備える。

すでに18日からオープンしており、利用期間は4月1日から9月30日、利用時間は、午後2時から翌日正午まで。問い合わせ先は、オートキャンプ場事務所（☎099



テープカットで開園を祝う関係者＝吾平町の現地で

業界発展のため尽力

白男川 孝三郎 さん

先月、県鹿児島総務事務所次長兼管理課長を最後に退職し、1日付けで同協会事務局長に就任しました。昭和39年に県庁入庁以来、農政部を中心に渡り歩き、土木部では宮之城土木事務所で用地を担当し、平成6年から2年間は道路建設課に配属になったこともあります。

長年、税関係の業務に従事していたこともあり、県財政の一端を担う税収入の落ち込みようは目を見張るものがありました。公共事業費の削減が著しく年々厳しくなっているのが実情で、立場が変わって更に厳しさを痛感していますが、今は辛抱の時期だと思っています。生き残りをかけ、経営の合理化などを図り足場づくりを行い、業界発展のために微力ながら尽力したいと思っています。

特段、趣味や特技はありませんが、「家族や親兄弟がいつまでも仲良く」をモットーに、これから余暇の過ごし方を模索していきたいですね。

（県造園建設業協会事務局長）